

©福澤昭嘉



美と機能、双方が満たされた食の空間

漫画作家のアトリエ付き住居。キッチンには「ラスティック＆ラグジュアリー」をテーマに経年変化するテクスチャーを集め、ここに暮らす時間の経過が愛おしく感じられるような空間がデザインされた。住み手からのリクエストは、忙しい時期に活動を支えるスタッフが一堂に会して食事ができる十分な広さのキッチンとダイニングスペース。切妻の壁の右端には、パントリーへと続く扉が壁と見分けがつかないように設えてある。クールに見える空間だが、食に集う人の気配が似合うのは、美と機能を兼ね備えているから。建築家の懐の広さが垣間見られる作品だ。

ASJ賞 賞金 10万円

Branch Haus

□設計者
石憲明
seki.design
□キッチン製作
キッチンハウス

□敷地面積／271.70m²
□延床面積／206.60m²
□所在地／兵庫県神戸市
□構造／木造
□建築家連絡先／
078-351-6128
<http://www.sekidesign.com>
□キッチン製作連絡先／
06-6536-3690
<http://www.kitchenhouse.jp>



1

受賞
ポイント
「建築とキッチンの関係性」をトータルで考慮した作品に送られるASJ賞。ヨーロッパの古い教会をイメージしてデザインされたこの空間は、特殊な加工が施されたラスティックなステンレスの壁面と石の祭壇を模したアイランドキッチンで構成されている。キッチンが切妻の天井の広い空間の一部として調和しつつも、建物全体のテーマを表現するアイコン的な役割も果たしている点が受賞の要因。この優美な併まいが審査員の記憶に残った。

1 夜はさらに幻想的に。2 烈していく鉄を思わせる壁面は、メーカーと共同で製作した酸処理を施したステンレス。アイランドは超大判のタイルをシームレスでつなぎ、石を切り出してきてつくった祭壇を模した。

技巧賞 賞金 10万円

haus Jun project

□設計者
田中一郎
田中一郎建築事務所
□キッチン製作
今井商店

□敷地面積／412.00m²
□延床面積／355.18m²
□所在地／兵庫県姫路市
□構造／鉄骨造
□建築家連絡先／
078-333-0616
ichiro@ichiro-ichiro.com
□キッチン製作連絡先／
06-6430-6448
imai@world.ocn.ne.jp

受賞
ポイント
住み手のイニシャル「J」を象ったオブジェのようなカウンターに、「ダイニング」と「アイランド」の一体型はあるけれど、ここまで思い切ったデザインはなかなかない! 「まさに造形美」、「使いやすさ、使いやすがよく考慮されている」と驚きの声が上がった。来客も多い空間で換気扇やコンセントの見え方など、細部に至るまでの徹底の度合いも群を抜いていた。「日常空間に非日常を」いう建築家のコンセプトが最大限に表現されている。



日常空間に非日常を生む、オブジェのようなキッチン

1 中庭に向けてシンクとIHの調理部分、くの字に曲げた食卓兼用部分には鉄板焼き機がビルトインされている。2 プールのある中庭を挟んでLDK棟と個室を配置したプライベート棟に分かれたコートハウス。



第6回

ファンタスティック オーダーキッチン グランプリ 2018

受賞作品発表!



FANTASTIC
KITCHEN
COMPETITION

審査委員(五十音順)

飯島直樹
[飯島直樹デザイン室
代表]

志水りえ
[モダンリビング
編集長]

高橋正嘉+原田小夜子
[ハイランドデザイン
(第5回グランプリ受賞者)]

丸山雄平
[アキテクツ・スタジオ・
ジャパン 代表取締役]

山根太郎
[サンワカンパニー
代表取締役社長]

渡辺篤史
[俳優、ナレーター]

リネアタラーラが主催する「オーダーキッチングランプリ」は今年で6回目を迎え、全国から100点を超える応募作品が集まりました。審査員には、人気テレビ番組『渡辺篤史の建もの探訪』でもお馴染みの俳優の渡辺篤史さんが新たに加わり、賑わいのある選考会となりました。作品群は審査員の好感を得る充実した内容で、「きれいなキッチンが増えた」、「ライフスタイルに合わせた個性的なものが目立つ」、「限られた空間の中で、世界観がきれいにまとめられている」などの声が上がりました。今回、満場一致でグランプリに輝いたのは、ihmkの手

がけた「ひな壇基礎の家」。「傾斜地の魅力を生かしたチャレンジ」が決め手でした。全体を通して「キッチンの見方を変えていくような作品も数多く見られた」という感想もあった一方で、渡辺さんからは、「男子厨房に入らずから、家族全員が厨房に立てる時代になった今、ここまでキッチンをこぎれいにする必要があるのだろうか? もっと日本のかまど的な作品が出てくるのを期待しています!」という新鮮な意見も。キッチンが進化を見せる今、「温故知新」という課題もまた、今後のキッチンをより豊かにするヒントになるかもしれません。

取材・文／山根佐枝

主催／リネアタラーラ 後援／アキテクツ・スタジオ・ジャパン、ハースト婦人画報社『モダンリビング』、サンワカンパニー

